

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 5 月 22 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24790617

研究課題名(和文) フィリピン先住民の母子保健に関する住民参加型研究手法を用いた社会的決定要因の解明

研究課題名(英文) Study on the social determinants of mother and child health among indigenous people in the Philippines by using community-based participatory research

研究代表者

デロスレイエス C (de los Reyes, Calvin)

大阪大学・人間科学研究科・非常勤講師

研究者番号：10599252

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：フィリピン先住民地域への母子保健に関する公衆衛生介入は、多くの場合効果的に運用されていない。それは、母子保健に関する現地の社会的決定要因を正確に理解していないことに起因する。そのため、住民参加型研究手法を用いて、現地住民との協働により母子保健に関する社会決定要因を解明することが重要となる。住民参加型研究手法を導入することにより、現地母親の母子保健に関する知識と実践が改善されるかどうかが決まる。コミュニティの母親による母子保健の知識、実践、態度に関するデータを収集・分析し、コミュニティ構成員との協働のもと現地版母子手帳を開発した。この協働により、現地住民の主体性と責任感の醸成が可能になった。

研究成果の概要(英文)：Most public health approaches were found to be ineffective when applied among indigenous groups, due to their lack of effort in carefully understanding their social determinants of MCH. Thus, this endeavor was initiated to reflect on the pressing MCH indicators through community-based participatory research (CBPR). CBPR was undertaken to determine if a group of indigenous Tagbanua mothers could achieve an improvement in their health knowledge and practices with a specific health promotion tool. Mothers' knowledge, attitude and practices were collected and analyzed with selected stakeholders from the community. The Tagbanua MCH Handbook was developed and implemented with partnership among members of the community. It was developed and implemented according to the standards of the locale, with collaboration from the community, thus fostering the sense of ownership and responsibility in the community. It allowed mothers to pay a more conscious effort on their and their children's health.

研究分野：公衆衛生

キーワード：母子保健 フィリピン先住民 社会的決定要因 住民参加型研究手法

## 1. 研究開始当初の背景

保健衛生、特に母子健康保健に関して、フィリピン先住民は非先住民と同等のサービスを受けているとは言い難い。これは、保健衛生サービスへの物理的なアクセスの悪さだけでなく、フィリピン先住民の保健衛生観念についての文化的・社会的コンテクストに起因している。従来多くの保健衛生面での介入とは異なり、フィリピン先住民においてはコミュニティ全体や祖先などを包含した健康観念が重要な要素を構成しており、彼らの保健衛生環境の改善はコミュニティの社会的決定要因を考慮する必要がある。

フィリピン先住民社会の保健衛生状況を左右する社会的決定要因は、住民参加型研究手法によって明らかにすることができる。住民参加型研究手法は、調査のプロセスそのものにコミュニティ代表や現地住民の参加を求め、問題の所在やデータ解釈、問題の発見などを共同で行い、疾病発生要因を社会的・文化的文脈に基づき、包括的かつより深いレベルで解明する。本研究プロジェクトでは、フィリピン先住民タグバヌア人コミュニティにおいて以前に実験的に導入した母子手帳の研究成果を踏まえて、住民参加型研究手法による調査分析を行った。

## 2. 研究の目的

本研究は、フィリピン・コロンの先住民族であるタグバヌア人コミュニティにおいて、住民参加型研究手法を用いて、母子保健に影響を与える社会的決定要因について探求することを目的とする。また、研究者とタグバヌア先住民、現地の保健衛生機関、保健衛生部門の代表と共同で、コミュニティにおけるより包括的な先住民向けの母子健康プログラムを開発することも目的としている。本研究プロジェクト実施者本人によって、これまでに母子手帳が開発され、当該社会に導入されていたが、約5年の時間を経て、同母子手帳の利用状況と問題点の検証も行われる。

## 3. 研究の方法

### (1) 住民参加型研究手法

住民参加型研究手法を用いた。住民参加型研究手法は、コミュニティ構成員と現地組織代表、研究者が、調査の過程のあらゆる局面に参加して行う調査手法である。住民参加型研究手法においては、コミュニティと研究者の両者が、研究調査のすべての段階において、意志決定権を持ち、主導的役割を發揮する。また、新たな保健衛生プログラムの開発や開発したプログラムのコミュニティ内部での普及についても、同様にコミュニティと研究者双方が関与する。

### (2) 調査研究フェーズ

調査研究は次の六つのフェーズに分けて実施した。

### フェーズ1：ネットワークの再構築

以前に構築したタグバヌア社会とのネットワークを再構築するため、コロンのタグバヌア族協会およびコロンのタグバヌア長老協会との間で関係を強化し、タグバヌア族のコミュニティリーダーとの間で、調査協力に関する覚え書きを取り交わした。また、以前に導入したタグバヌア族用の母子手帳の利用状況について、調査を行った。

### フェーズ2：調査プランの策定

タグバヌアコミュニティの母親、伝統治療者、現地保健衛生機関、地域産婆、長老等の代表者とのインタビューやフォーカスグループディスカッションを通して、地域の母子健康に影響を与える社会的決定要因の洗い出しを行った。また、初期調査の結果は、住民集会において報告した。

### フェーズ3：データ収集

前年度に収集した基礎データに基づき、社会的決定要因と母子健康指標を、住民参加のもとで明らかにした。また、聞き取り調査項目を策定し、本プロジェクト代表者と共同で、現地組織を中心に調査とデータ収集を実施する準備を行った。

### フェーズ4：データ収集と分析

訓練を受けたタグバヌアコミュニティのメンバーを中心に、本プロジェクト代表者と共同で、訪問家庭を選定してインタビュー調査を行った。データ分析は、クリソストモ氏（フィリピン大学公衆衛生学院前教授）の協力を経て実施した。社会的決定要因と母子手帳の利用状況調査の結果は、現地において母親やコミュニティリーダー、現地保健組織などの参加を得て公開した。

### フェーズ5：母子保健向上プログラム

現地の母子保健衛生組織と母親によるフォーカスグループディスカッションを通して、前年度に収集したデータの解析が行われ、タグバヌア社会にもっとも適した母子保健プログラムと衛生介入の在り方が検討された。また、ステークホルダーを中心にワークショップが開催され、伝統的母子保健組織と専門的保健組織とが協働した、より柔軟な母子保健プログラムの導入が検討された。

### フェーズ6：調査分析の終了と評価

住民参加型研究手法に基づく調査の結果が明らかにされ、調査報告を作成して、現地住民に配布した。

## 4. 研究成果

### (1) 疫学的・地理的データ検証

これまでフィリピン先住民社会の保健衛生状況は悪化の一途をたどると言われてきたが、そうした前提は疫学的および地理的データによって検証される必要がある。たとえば、タグバヌア人母親の間では、母乳による育児比率が非常に高いが、こうした点はむしろ都市住民が模範とすべきものである。また、保健所等での治療やケアを無料としているが、他方でそうした保健衛生施設へのアクセ

ス自体に多大なコストがかかる状況が続いており、十分な保健衛生ケアができていないと言いはり難い。

(2) 文化社会背景を踏まえたケアの重要性  
タグバヌア先住民の衛生観念や態度、実践等の文化的要素の理解が欠如しているために、十分な健康ケアが実施されていないことが理解された。フィリピンのマジョリティに対応した健康ケアが、タグバヌア人コミュニティの文化社会的実情にうまく適合させられていないため、健康ケアに関する情報が適切にコミュニティに提供されていない。こうした状況に鑑み、タグバヌア社会に特化した母子手帳の開発が必要とされていた。

タグバヌア人版母子手帳の開発に当たって実施したフォーカスグループディスカッションやインタビュー調査、現地ワークショップでは、次の点が強調された。第1に、既存の母子保健システムに合わせた手帳が開発されるべきであること、第2に、単なる言語の翻訳レベルにとどまるべきではないこと、第3に、利用者の識字能力に柔軟に対応したものであること、第4に、イラストを多用すべきことである。

### (3) タグバヌア母子手帳の検証と利用

タグバヌア人母子の健康管理と情報提供、並びに現地保健師の保健サービス支援を目的として、タグバヌア母子手帳が、コロン島のカブガオ (Cabugao) バランガイ (コミュニティ) において導入されていた。本研究では、母子手帳導入後のコミュニティへの影響について、調査検証を行った。その結果、タグバヌア人母親の母子保健に関する知識が大きく向上したことがわかった。

ただし、出生前検診の重要性については大きな変化は見られず、母子手帳導入前後で8%から18%に増加したのみであった。これは、母子手帳が出産後に配布される仕組みになっており、出生前の母子健康に関する知識に影響を与える状態になかったことによると考えられる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 0 件)

[学会発表](計 9 件)

de los Reyes, Calvin. “Towards Healthier Indigenous Mothers and Children in the Philippines: Maternal and Child Health Handbook Strategy among the Tagbanua of Coron Island, Palawan.” 7th Asia Pacific Conference on Reproductive and Sexual

Health and Rights (APCRSHR). January 2014. (Philippines)

de los Reyes, Calvin. “The Maternal and Child Health Handbook: An Effective Tool towards the Achievement of Millennium Development Goals 4 and 5.” 7th Asia Pacific Conference on Reproductive and Sexual Health and Rights (APCRSHR). January 2014. (Philippines)

de los Reyes, Calvin. “Understanding the Social Determinants of Maternal and Child Health among Indigenous Peoples in the Philippines: The Case of Tagbanua Mothers and Children of Coron, Palawan.” 7th Asia Pacific Conference on Reproductive and Sexual Health and Rights (APCRSHR). January 2014. (Philippines)

de los Reyes, Calvin. “Social Determinants of Maternal and Child Health among Indigenous Peoples in the Philippines: Case of Tagbanua Mothers and Children of Coron, Palawan.” 28th Annual Congress of the Japan Association for International Health. October 2013. (名桜大学、名護市)

de los Reyes, Calvin and Sawamura, Nobuhide. “Primary School Teachers’ Role on Health Education and Promotion among Semi-Traditional Maasai Students in Narok, Kenya.” 28th Annual Congress of the Japan Association for International Health. October 2013. (名桜大学、名護市)

de los Reyes, Calvin. “Exploring the Social Determinants of Maternal and Child Health among Indigenous Peoples in the

Philippines.” 21st IUHPE World Conference on Health Promotion. August 2013. (Thailand)

de los Reyes, Calvin and Sawamura, Nobuhide. “Perceived Role and Practices of Teachers on Health Education and Promotion among Maasai Primary School Students in Narok District, Kenya.” 21st IUHPE World Conference on Health Promotion. August 2013. (Thailand)

de los Reyes, Calvin. “Exploring the Social Determinants of Maternal and Child Health among Indigenous Peoples in the Philippines.” The 18th Young Scholars' Conference on Philippine Studies. June 2013. (Japan、神戸女学院大学、西宮市)

de los Reyes, Calvin. “Promoting Maternal and Child Health among Indigenous Peoples in the Philippines.” The Third International Conference on Health, Wellness and Society. March 2013. (Brazil)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
なし

6. 研究組織  
(1)研究代表者  
デロスレイエス C (de los Reyes, C)  
大阪大学大学院・人間科学研究科・非常勤  
講師  
研究者番号：10599252

(2)研究分担者  
( )

研究者番号：

(3)連携研究者  
( )

研究者番号：